

「国際理解プログラム」に参加しました（語学研究部）

1月18日に、仙台観光国際協会の「国際理解プログラム」にZoomを利用して参加しました。

まず、仙台観光国際協会の活動について、説明をしていただきました。現在仙台に約14,000人の外国人が住み、多言語放送局での情報提供、多文化共生センターでの相談、電話による通訳などでサポートを行っていること等教えていただきました。

次に、ニュージーランド出身で仙台在住のPaige Leisさんから、ニュージーランドの高校生の生活について、自動車免許取得や、選挙権、日本との違い等、様々な説明をしていただきました。

最後に質疑応答で、語学研究部員からたくさんの質問をしましたが、一つ一つ丁寧に、時には日本と比較しながら答えていただきました。災害に関する質問に対しては、ニュージーランドも地震が多く津波の心配があること、2011年の東日本大震災の2週間前には大地震があり、ニュージーランドで英語を勉強していた日本人学生が多く亡くなったことなどについても話していただきました。

今回は日本語での活動でしたが、質疑応答では英語も試してみました。Zoomで英語を使うのは初めてで戸惑いもありましたが、講師のPaige先生のおかげで、コミュニケーションをとることができ、学びの多い時間を過ごすことができました。

【参加した生徒の感想】

ニュージーランドの文化や災害について知ることができて良かったです。学校が、とても自由で、科目選択ができるところが良いなと思いました。海外の学校に憧れているので、私もニュージーランドの学校に通ってみたいです！選挙権や、運転免許、お酒が飲める年齢など、日本と似ているようで似ていない部分も多くあることを知りました。

防災訓練を地域でほとんど行わず、近所同士の顔も名前も詳しく知らないというのは正直びっくりしました。日本では、昔からずっと、「ご近所同士のつながりを大切に下さい！お隣さんには挨拶下さい！」と言われていたり、地域の人同士でコミュニケーションをとったりするのが普通だと思っていたので、国によって地域のつながりが全然違うのだなと思いました。

一方で、2011年の東日本大震災の2週間前にニュージーランドでも大きな災害が起こっていたことを知り、それぞれの災害の違いや、被害状況を詳しく調べてみたと思いました。また、災害時にたくさんの国や人が食料・日用品を運んでくれたり、ボランティアで現地にかかけつけてくれたりしたので、私も、他国が災害で大変な目にあっていたら、自分でできる最大限のサポートをしていきたいです。

語学研究部 2年 鈴木 柚花（田子中出身）

今回は国際理解を深めるために、Zoomを使ってニュージーランド出身の先生とお話することができました。先生のニュージーランドの説明の中で、公園にサクラの気が植えてあることや、高校生のアルバイトでベビーシッターが人気なことなど、日本ではあり得ないような話が盛りだくさんでした。

他にもマオリ族の踊りで有名な「ハカ」の振り付けのことや、季節の中に梅雨がないことなど、ニュージーランドに関する知識が増えたことが楽しかったです。

今回はコロナの影響もあり、Zoomを使用しましたが、先生の声が聞き取りづらい時があったり、マイクに近づいて声を張ったりする場面がありました。また、学校のALTの先生よりも早い英語で、メモをするのが精一杯でした。リスニング力や語彙力を高めるために日々の部活に一生懸命取り組んでいこうと思います。

語学研究部 1年 児玉 紅花 (大郷中出身)

日本とニュージーランドでは学校のルールや仕組みが全く違うことに驚きました。「日本人はまじめ」と言われているのを聞いたことがあったのですが、日本ではしっかりと科目も設定され、アルバイトもほとんどの学校が禁止であるのに対して、ニュージーランドでは全く正反対なのは、昔からの文化の違いが関係しているんだろうと思います。

昔と今の日本とニュージーランドの文化を比較してみるとまた何か発見できそうだと思います。

語学研究部 1年 三浦 誠鈴 (館中出身)

